

家計調査報告〔貯蓄・負債編〕

2025年(令和7年)平均結果の概要 (二人以上の世帯)

目 次

I 貯蓄の状況	
1 概況	1
2 貯蓄の種類別内訳	4
II 負債の状況	
1 概況	6
2 負債の種類別内訳	9
III 世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況	
1 世帯主の年齢階級別	10
2 年間収入五分位階級別	14
3 貯蓄現在高五分位階級別	18
4 持家世帯(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)	20
5 世帯主が65歳以上の世帯	22
<参考1-1> 長期時系列(二人以上の世帯の貯蓄の推移)	25
<参考1-2> 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移(二人以上の世帯)	26
<参考2> 2025年の貯蓄・負債をめぐる主な動き	27

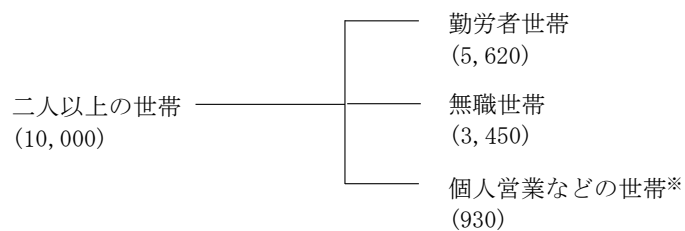
令和8年5月19日

利用上の注意

- * 本資料の数字は、特に断りのない限り、1世帯当たりの平均値である。
- * 年平均は、月別結果の単純平均として算出している。
なお、公表しているのは四半期平均及び年平均である。
- * 貯蓄現在高及び負債現在高の表章単位は（万円）である。
- * 本資料の数字は、表章単位未満を四捨五入しているため、内訳を足し上げても必ずしも合計とは一致しない。
- * 統計表中の「－」は、該当数字がないものである。

家計調査の世帯区分

〈貯蓄・負債編〉



- 注) 1 () 内は、2025年平均の世帯数分布（1万分比）
2 貯蓄・負債編は、貯蓄・負債不詳世帯を除いて集計している。このため、世帯数分布は家計収支編の世帯数分布とは必ずしも一致しない。
- ※ 勤労者・無職以外の世帯

詳細目次

I 貯蓄の状況

1 概況	1
(1) 貯蓄現在高は2059万円で7年連続の増加	1
(2) 貯蓄現在高が平均値(2059万円)を下回る世帯が約3分の2を占める	3
2 貯蓄の種類別内訳	4
通貨性預貯金は17年連続の増加	4

II 負債の状況

1 概況	6
負債現在高は675万円で前年に比べ1.8%の増加	6
2 負債の種類別内訳	9
住宅・土地のための負債は620万円で前年に比べ1.3%の増加	9

III 世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況

1 世帯主の年齢階級別	10
(1) 世帯主が50歳未満の各年齢階級では負債現在高が貯蓄現在高を上回る	10
(2) 負債保有世帯のうち負債超過額が最も多いのは世帯主が40歳未満の世帯	12
2 年間収入五分位階級別	14
(1) 負債現在高は年間収入が高くなるに従って多い	14
(2) 勤労者世帯の貯蓄現在高は年間収入が高くなるに従って多い	16
3 貯蓄現在高五分位階級別	18
貯蓄現在高が最も多い第V階級の世帯の有価証券の割合は27.0%	18
4 持家世帯(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)	20
持家世帯のうち住宅ローン返済世帯の負債現在高は2076万円	20
5 世帯主が65歳以上の世帯	22
(1) 世帯主が65歳以上の世帯では貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が約3分の1を占める	22
(2) 世帯主が65歳以上の無職世帯の有価証券は510万円で前年に比べ1.8%の増加	23

参 考

<参考1-1> 長期時系列(二人以上の世帯の貯蓄の推移)	25
<参考1-2> 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移(二人以上の世帯)	26
<参考2> 2025年の貯蓄・負債をめぐる主な動き	27

I 貯蓄の状況

1 概況

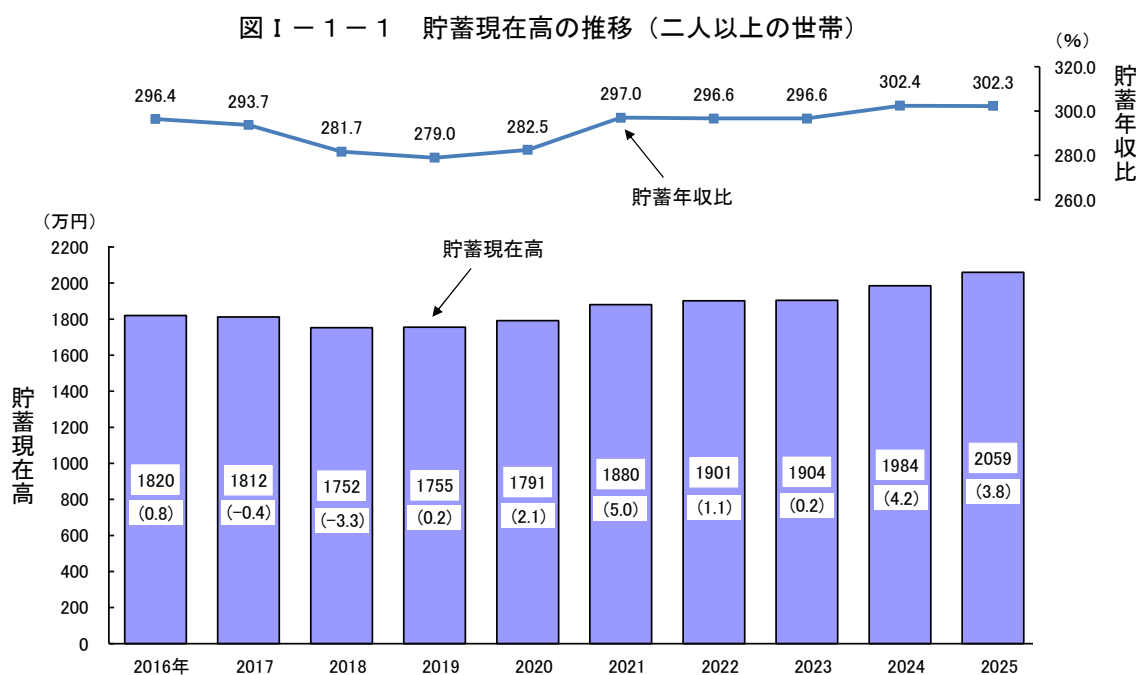
(1) 貯蓄現在高は2059万円で7年連続の増加

二人以上の世帯における2025年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）※¹は、2059万円で、前年に比べ75万円、3.8%の増加となり、7年連続の増加となるとともに、比較可能な2002年以降で最多となっている。年間収入は681万円で、前年に比べ25万円、3.8%の増加となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は302.3%で、前年に比べ0.1ポイントの低下となっている。また、貯蓄保有世帯の中央値※²は、1264万円（前年1189万円）となっている。

※¹ 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

※² 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

(図 I-1-1、表 I-1-1)



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表 I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値※ ² (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2016年	1820	614	0.8	-0.3	296.4	1064
2017年	1812	617	-0.4	0.5	293.7	1074
2018年	1752	622	-3.3	0.8	281.7	1036
2019年	1755	629	0.2	1.1	279.0	1033
2020年	1791	634	2.1	0.8	282.5	1061
2021年	1880	633	5.0	-0.2	297.0	1104
2022年	1901	641	1.1	1.3	296.6	1168
2023年	1904	642	0.2	0.2	296.6	1107
2024年	1984	656	4.2	2.2	302.4	1189
2025年	2059	681	3.8	3.8	302.3	1264 (1167)※ ³

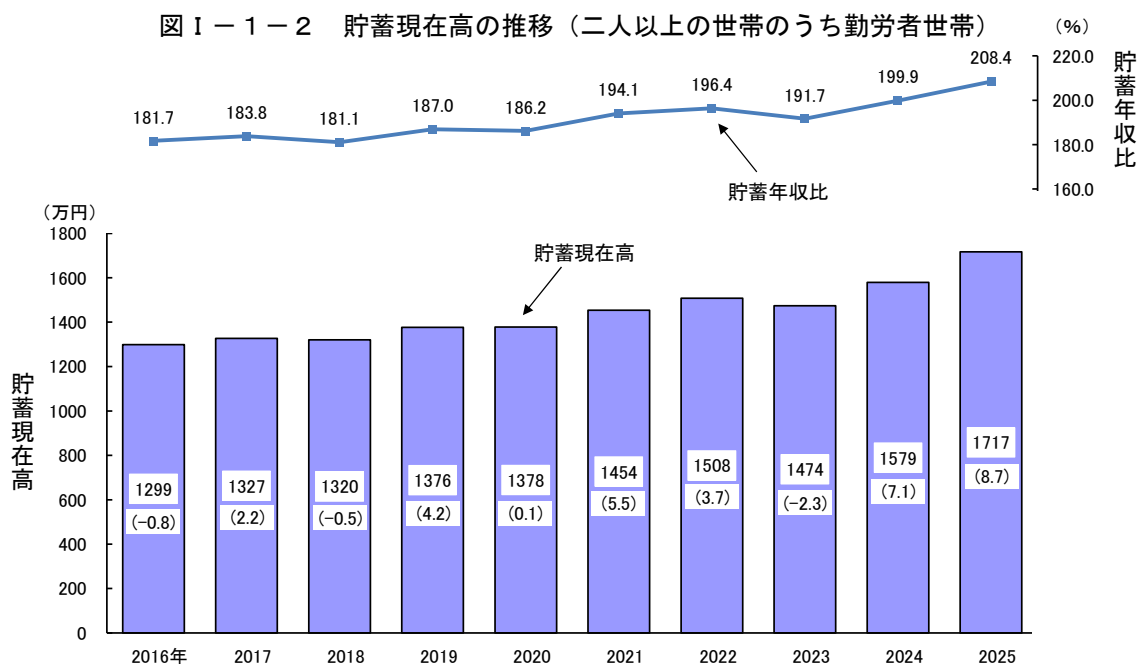
※³ () 内は、2025年の貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた中央値（参考値）

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合56.2%）についてみると、貯蓄現在高（平均値）※1は1717万円で、前年に比べ138万円、8.7%の増加となっている。年間収入は824万円で、前年に比べ34万円、4.3%の増加となり、貯蓄年収比は208.4%で、前年に比べ8.5ポイントの上昇となっている。また、貯蓄保有世帯の中央値※2は1015万円（前年947万円）となり、二人以上の世帯全体と比べると、平均値、貯蓄保有世帯の中央値共に少なくなっている。

※1 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

※2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

（図 I-1-2、表 I-1-2）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表 I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値※2 (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2016年	1299	715	-0.8	0.8	181.7	734
2017年	1327	722	2.2	1.0	183.8	792
2018年	1320	729	-0.5	1.0	181.1	798
2019年	1376	736	4.2	1.0	187.0	801
2020年	1378	740	0.1	0.5	186.2	826
2021年	1454	749	5.5	1.2	194.1	833
2022年	1508	768	3.7	2.5	196.4	928
2023年	1474	769	-2.3	0.1	191.7	895
2024年	1579	790	7.1	2.7	199.9	947
2025年	1717	824	8.7	4.3	208.4	1015※3 (964)

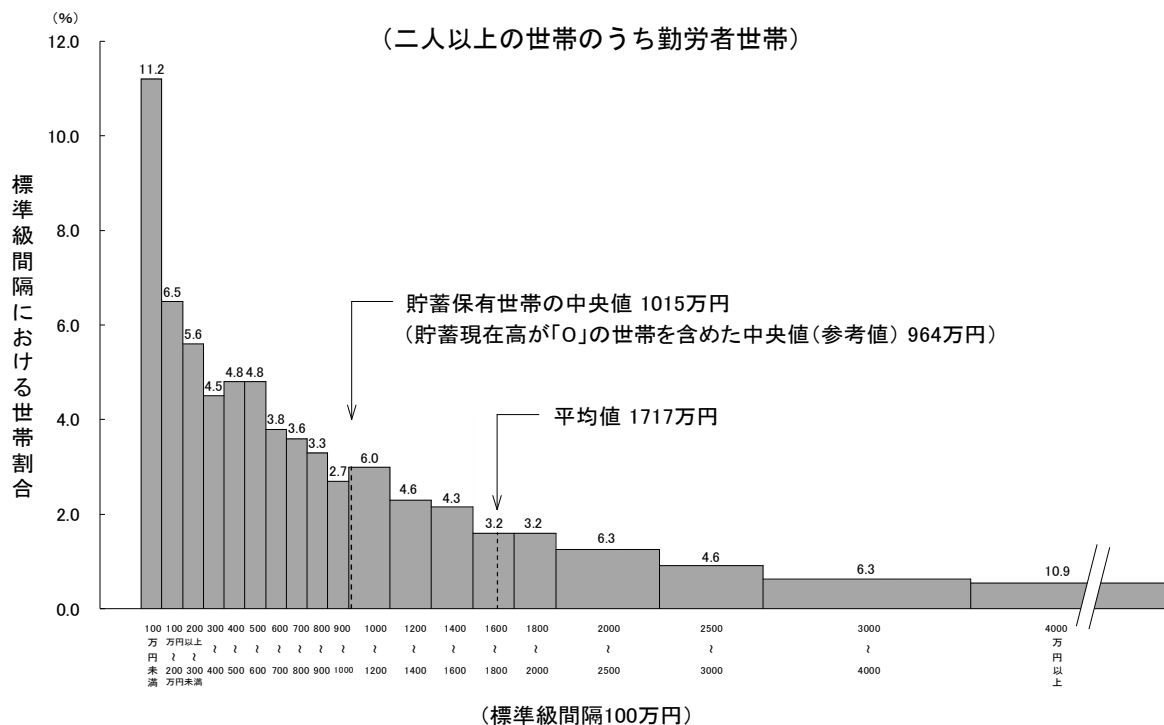
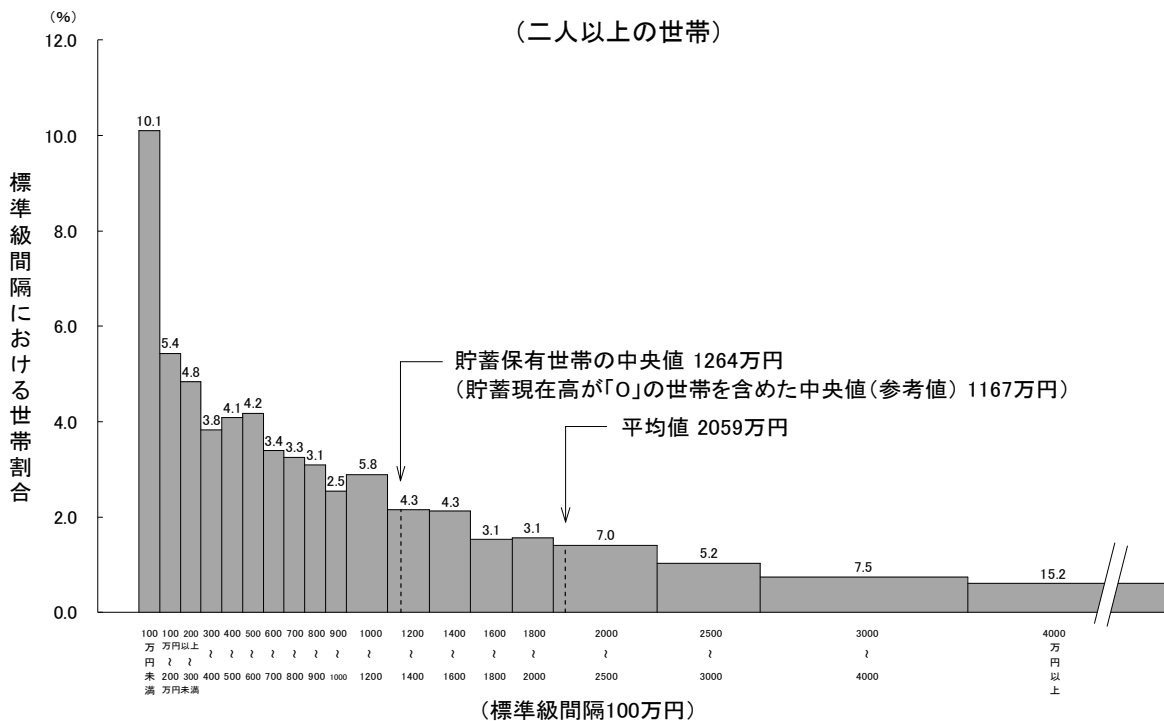
※3 () 内は、2025年の貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた中央値（参考値）

(2) 貯蓄現在高が平均値（2059万円）を下回る世帯が約3分の2を占める

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（2059万円）を下回る世帯が66.1%（前年67.0%）と約3分の2を占めており、貯蓄現在高の少ない階級に偏った分布となっている。

(図 I - 1 - 3)

図 I - 1 - 3 貯蓄現在高階級別世帯分布—2025年—
(二人以上の世帯)



注) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

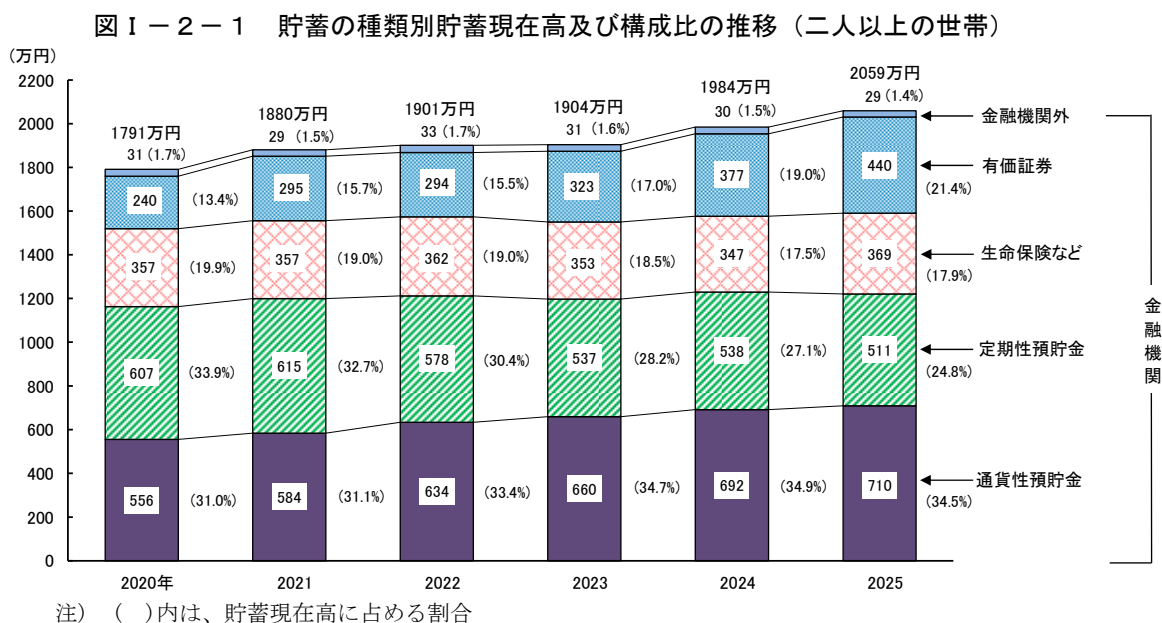
2 貯蓄の種類別内訳

通貨性預貯金は17年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、通貨性預貯金が710万円（貯蓄現在高に占める割合34.5%）と最も多く、次いで定期性預貯金が511万円（同24.8%）、有価証券が440万円（同21.4%）、「生命保険など」が369万円（同17.9%）、金融機関外が29万円（同1.4%）となっている。

2024年と比べると、通貨性預貯金、有価証券などが増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ18万円、2.6%の増加となり、17年連続の増加となっている。有価証券は、前年に比べ63万円、16.7%の増加となり、3年連続の増加となっている。

（図I-2-1、表I-2-1）



表I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

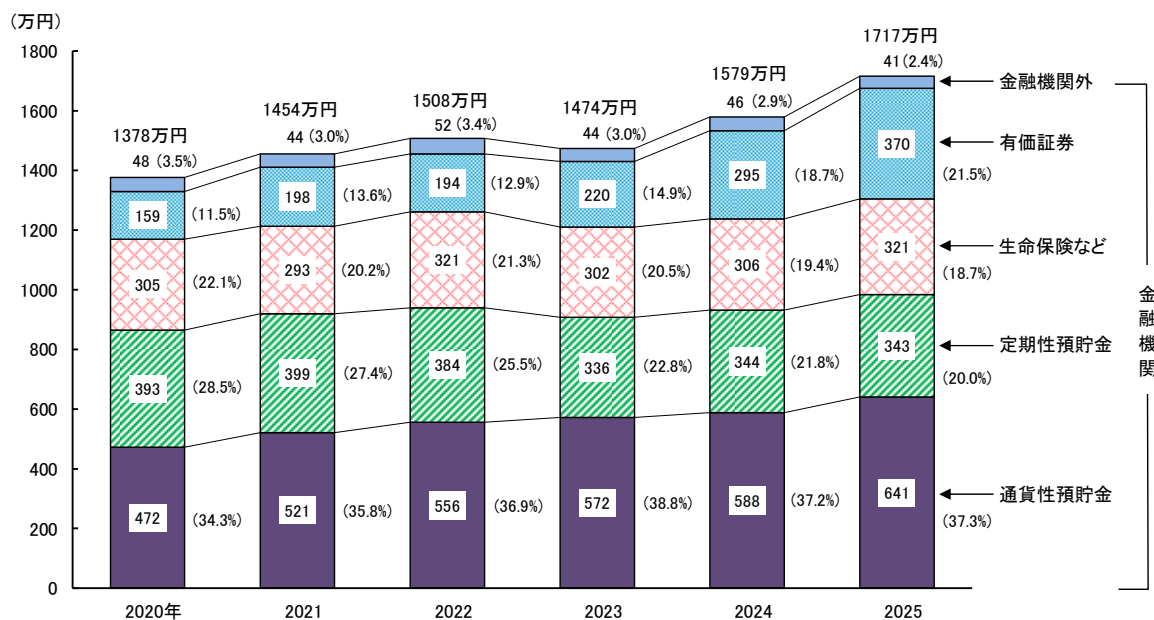
年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託・金銭信託	株式	債券	投資信託		
金額 (万円)											
2020年	1791	1761	556	607	357	240	8	123	29	80	31
2021年	1880	1851	584	615	357	295	7	152	33	102	29
2022年	1901	1868	634	578	362	294	8	146	35	106	33
2023年	1904	1873	660	537	353	323	10	169	29	115	31
2024年	1984	1954	692	538	347	377	5	195	36	141	30
2025年	2059	2029	710	511	369	440	5	218	38	179	29
構成比 (%)											
2020年	100.0	98.3	31.0	33.9	19.9	13.4	0.4	6.9	1.6	4.5	1.7
2021年	100.0	98.5	31.1	32.7	19.0	15.7	0.4	8.1	1.8	5.4	1.5
2022年	100.0	98.3	33.4	30.4	19.0	15.5	0.4	7.7	1.8	5.6	1.7
2023年	100.0	98.4	34.7	28.2	18.5	17.0	0.5	8.9	1.5	6.0	1.6
2024年	100.0	98.5	34.9	27.1	17.5	19.0	0.3	9.8	1.8	7.1	1.5
2025年	100.0	98.5	34.5	24.8	17.9	21.4	0.2	10.6	1.8	8.7	1.4
対前年増減率 (%)											
2021年	5.0	5.1	5.0	1.3	0.0	22.9	-12.5	23.6	13.8	27.5	-6.5
2022年	1.1	0.9	8.6	-6.0	1.4	-0.3	14.3	-3.9	6.1	3.9	13.8
2023年	0.2	0.3	4.1	-7.1	-2.5	9.9	25.0	15.8	-17.1	8.5	-6.1
2024年	4.2	4.3	4.8	0.2	-1.7	16.7	-50.0	15.4	24.1	22.6	-3.2
2025年	3.8	3.8	2.6	-5.0	6.3	16.7	0.0	11.8	5.6	27.0	-3.3

このうち勤労者世帯についてみると、通貨性預貯金が641万円（貯蓄現在高に占める割合37.3%）と最も多く、次いで有価証券が370万円（同21.5%）、定期性預貯金が343万円（同20.0%）、「生命保険など」が321万円（同18.7%）、金融機関外が41万円（同2.4%）となっている。

2024年と比べると、通貨性預貯金、有価証券などが増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ53万円、9.0%の増加となり、比較可能な2003年以降増加が続いている。有価証券は、前年に比べ75万円、25.4%の増加となり、3年連続の増加となっている。

（図 I - 2 - 2、表 I - 2 - 2）

図 I - 2 - 2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表 I - 2 - 2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託・金銭信託	株式	債券	投資信託		
金額 (万円)											
2020年	1378	1330	472	393	305	159	6	82	17	55	48
2021年	1454	1411	521	399	293	198	5	106	15	73	44
2022年	1508	1456	556	384	321	194	5	91	17	81	52
2023年	1474	1430	572	336	302	220	6	107	17	90	44
2024年	1579	1533	588	344	306	295	4	144	22	124	46
2025年	1717	1675	641	343	321	370	4	166	27	174	41
構成比 (%)											
2020年	100.0	96.5	34.3	28.5	22.1	11.5	0.4	6.0	1.2	4.0	3.5
2021年	100.0	97.0	35.8	27.4	20.2	13.6	0.3	7.3	1.0	5.0	3.0
2022年	100.0	96.6	36.9	25.5	21.3	12.9	0.3	6.0	1.1	5.4	3.4
2023年	100.0	97.0	38.8	22.8	20.5	14.9	0.4	7.3	1.2	6.1	3.0
2024年	100.0	97.1	37.2	21.8	19.4	18.7	0.3	9.1	1.4	7.9	2.9
2025年	100.0	97.6	37.3	20.0	18.7	21.5	0.2	9.7	1.6	10.1	2.4
対前年増減率 (%)											
2021年	5.5	6.1	10.4	1.5	-3.9	24.5	-16.7	29.3	-11.8	32.7	-8.3
2022年	3.7	3.2	6.7	-3.8	9.6	-2.0	0.0	-14.2	13.3	11.0	18.2
2023年	-2.3	-1.8	2.9	-12.5	-5.9	13.4	20.0	17.6	0.0	11.1	-15.4
2024年	7.1	7.2	2.8	2.4	1.3	34.1	-33.3	34.6	29.4	37.8	4.5
2025年	8.7	9.3	9.0	-0.3	4.9	25.4	0.0	15.3	22.7	40.3	-10.9

II 負債の状況

1 概況

負債現在高は675万円で前年に比べ1.8%の増加

二人以上の世帯における2025年平均の1世帯当たり負債現在高（平均値）^{※1}は、675万円で、前年に比べ12万円、1.8%の増加となり、4年連続の増加となるとともに、比較可能な2002年以降で最多となっている。負債年収比（負債現在高の年間収入に対する比）をみると、99.1%と前年に比べ2.0ポイントの低下となっている。

二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合は、37.5%で、前年に比べ1.3ポイントの低下となっている。

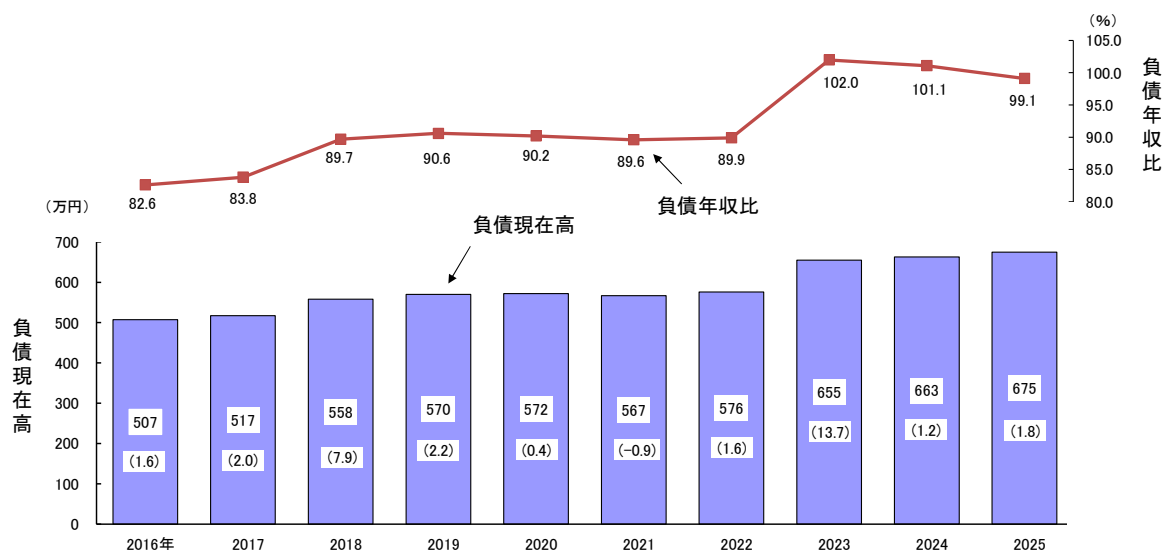
二人以上の世帯の負債保有世帯に限ってみると、負債現在高（平均値）は、1802万円で、平均値を下回る世帯が56.0%を占めている。また、負債保有世帯の中央値^{※2}は、1511万円（前年1480万円）となっている。

※1 負債現在高が「0」の世帯を含めた平均値

※2 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

（図Ⅱ-1-1、表Ⅱ-1-1、図Ⅱ-1-3）

図Ⅱ-1-1 負債現在高の推移（二人以上の世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表Ⅱ-1-1 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	負債現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		負債 年 収 入 比 (1)/(2) (%)	負債保 有 世 帯 の 割 合 (%)	負債保 有 世 帯 の 負 債 現 在 高 (万円)	負債保 有 世 帯 の 中 央 値 ^{※2} (万円)
			負 債 現 在 高 (%)	年 収 入 (%)				
2016年	507	614	1.6	-0.3	82.6	37.3	1357	1006
2017年	517	617	2.0	0.5	83.8	37.5	1379	1080
2018年	558	622	7.9	0.8	89.7	39.0	1430	1147
2019年	570	629	2.2	1.1	90.6	39.3	1451	1218
2020年	572	634	0.4	0.8	90.2	38.5	1486	1225
2021年	567	633	-0.9	-0.2	89.6	37.7	1505	1233
2022年	576	641	1.6	1.3	89.9	37.7	1528	1231
2023年	655	642	13.7	0.2	102.0	39.3	1667	1422
2024年	663	656	1.2	2.2	101.1	38.8	1709	1480
2025年	675	681	1.8	3.8	99.1	37.5	1802	1511

二人以上の世帯のうち勤労者世帯についてみると、負債現在高（平均値）※¹は、1034万円で、前年に比べ10万円、1.0%の増加となっている。負債年収比をみると、125.5%と前年に比べ4.1ポイントの低下となっている。

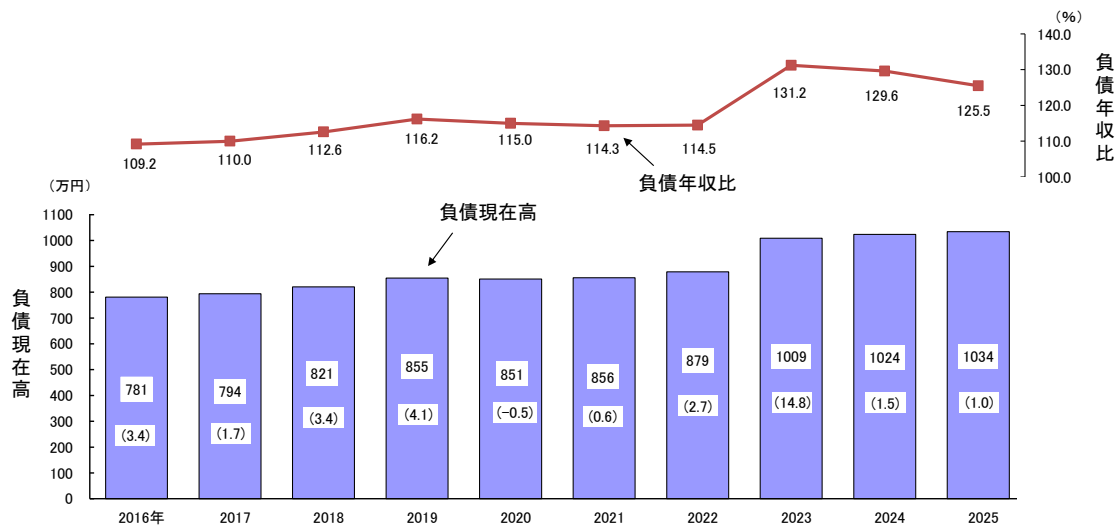
負債保有世帯の割合は、53.6%で、前年に比べ1.5ポイントの低下となっている。

負債保有世帯に限ってみると、負債現在高（平均値）は、1928万円で、平均値を下回る世帯が54.5%を占めている。

※¹ 負債現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図Ⅱ－1－2、表Ⅱ－1－2、図Ⅱ－1－3）

図Ⅱ－1－2 負債現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

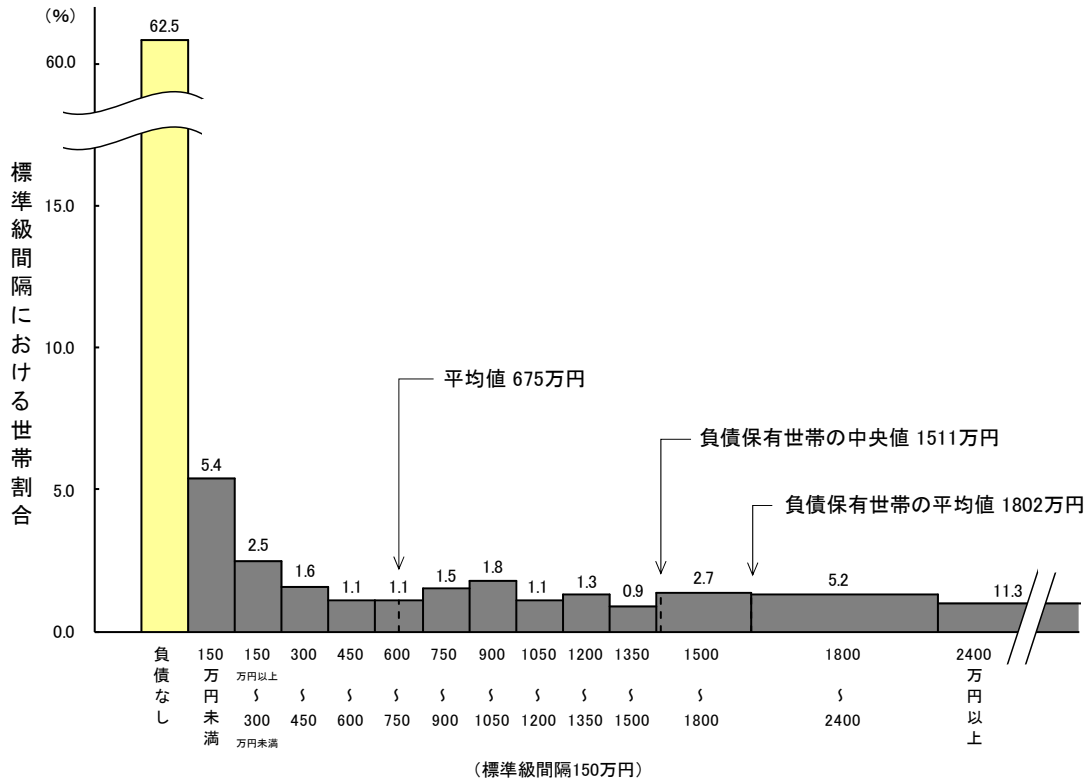
表Ⅱ－1－2 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	負債現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		負債年収比 (1)/(2) (%)	負債保有世帯の割合 (%)	負債保有世帯の負債現在高 (万円)	負債保有世帯の中央値※ ² (万円)
			負債現在高 (%)	年間収入 (%)				
2016年	781	715	3.4	0.8	109.2	53.9	1449	1313
2017年	794	722	1.7	1.0	110.0	54.1	1467	1315
2018年	821	729	3.4	1.0	112.6	54.6	1505	1356
2019年	855	736	4.1	1.0	116.2	55.3	1548	1449
2020年	851	740	-0.5	0.5	115.0	54.3	1569	1466
2021年	856	749	0.6	1.2	114.3	53.4	1603	1468
2022年	879	768	2.7	2.5	114.5	53.2	1650	1490
2023年	1009	769	14.8	0.1	131.2	55.7	1811	1646
2024年	1024	790	1.5	2.7	129.6	55.1	1858	1698
2025年	1034	824	1.0	4.3	125.5	53.6	1928	1735

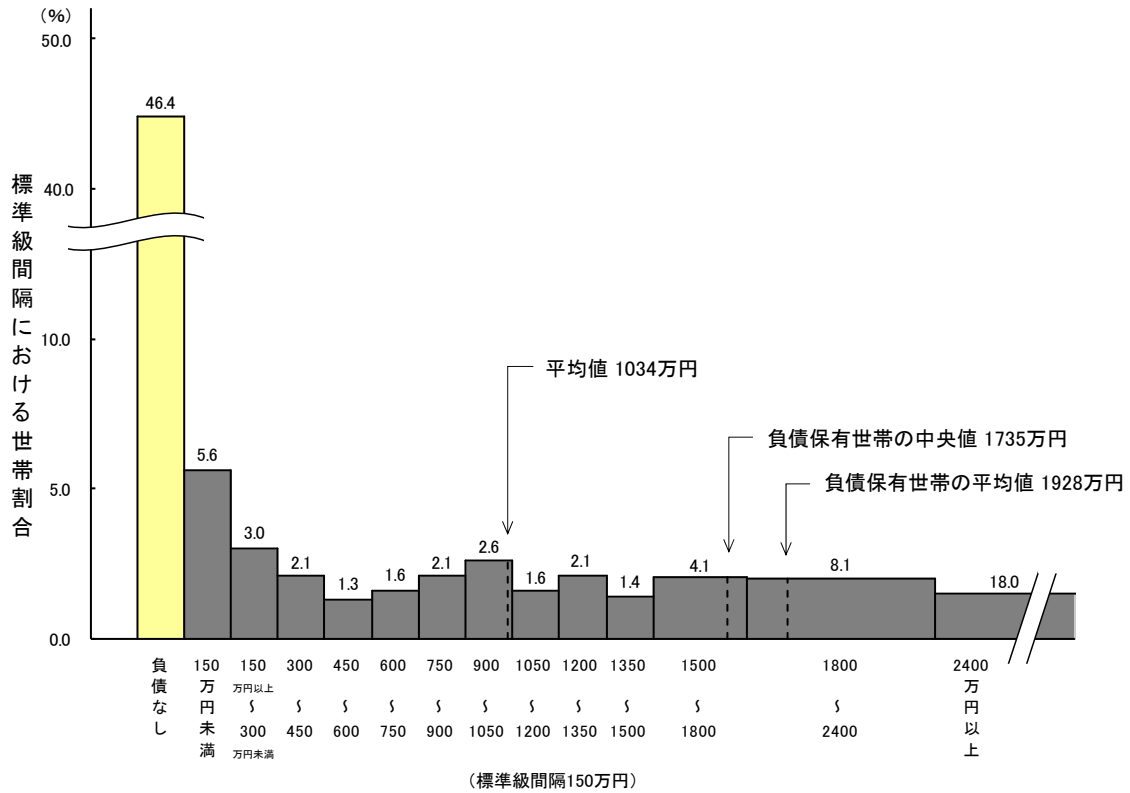
※² 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

図Ⅱ－１－３ 負債現在高階級別世帯分布－2025年－

(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) 標準級間隔 150 万円 (負債現在高 1500 万円未満) の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、負債現在高 1500 万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

2 負債の種類別内訳

住宅・土地のための負債は620万円で前年に比べ1.3%の増加

二人以上の世帯について負債の種類別に負債現在高をみると、負債現在高の約9割(91.9%)を占める住宅・土地のための負債は、620万円で、前年に比べ8万円、1.3%の増加となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、住宅・土地のための負債は、961万円で、前年に比べ5万円、0.5%の増加となっている。

二人以上の世帯の住宅・土地のための負債について、借入先の内訳をみると、公的機関は、100万円で、前年と同額となっている。また、民間機関は、514万円で、前年に比べ10万円、2.0%の増加となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、公的機関は、153万円で、前年に比べ5万円、3.2%の減少となっている。また、民間機関は、800万円で、前年に比べ13万円、1.7%の増加となっている。

(表Ⅱ-2-1)

表Ⅱ-2-1 負債の種類別負債現在高

項 目	二 人 以 上 の 世 帯				
	2024年	2025年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負 債 現 在 高	663	675	100.0	1.8	37.5
住宅・土地のための負債	612	620	91.9	1.3	29.8
公 的 機 関	100	100	14.8	0.0	5.1
民 間 機 関	504	514	76.1	2.0	24.7
そ の 他	8	6	0.9	-25.0	0.7
住宅・土地以外の負債	35	39	5.8	11.4	7.2
公 的 機 関	5	8	1.2	60.0	1.4
民 間 機 関	28	29	4.3	3.6	5.3
そ の 他	3	2	0.3	-33.3	1.2
月 賦 ・ 年 賦	15	16	2.4	6.7	11.0

項 目	二 人 以 上 の 世 帯 の う ち 勤 労 者 世 帯				
	2024年	2025年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負 債 現 在 高	1024	1034	100.0	1.0	53.6
住宅・土地のための負債	956	961	92.9	0.5	45.3
公 的 機 関	158	153	14.8	-3.2	7.4
民 間 機 関	787	800	77.4	1.7	37.8
そ の 他	12	8	0.8	-33.3	1.0
住宅・土地以外の負債	46	50	4.8	8.7	10.2
公 的 機 関	6	7	0.7	16.7	1.8
民 間 機 関	38	41	4.0	7.9	7.8
そ の 他	3	2	0.2	-33.3	1.5
月 賦 ・ 年 賦	22	22	2.1	0.0	14.2

Ⅲ 世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況

1 世帯主の年齢階級別

(1) 世帯主が50歳未満の各年齢階級では負債現在高が貯蓄現在高を上回る

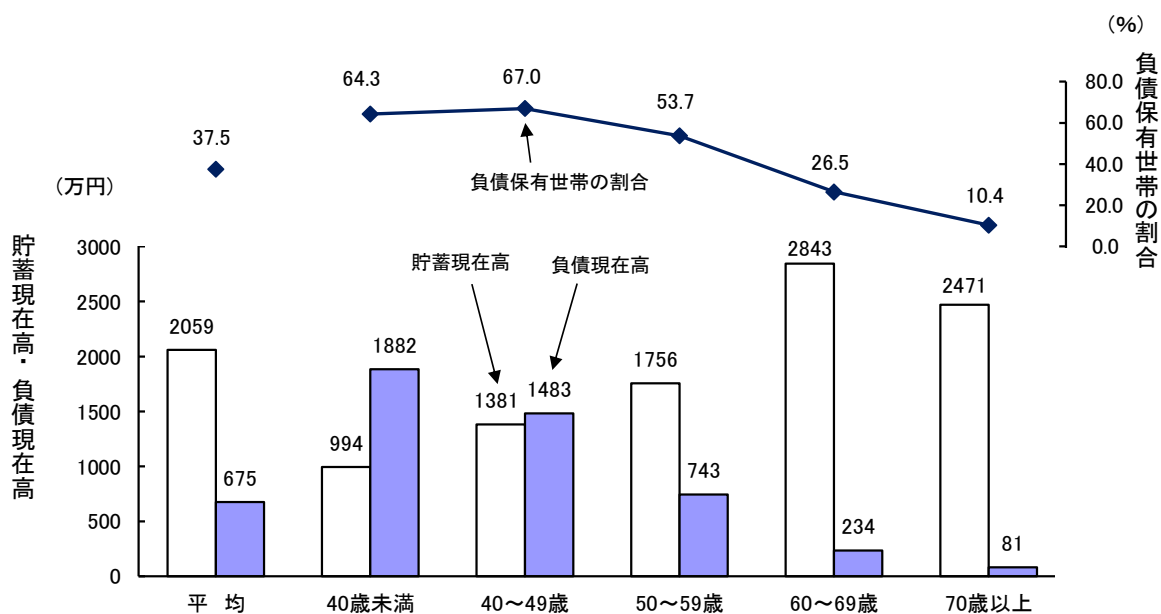
二人以上の世帯について世帯主の年齢階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が994万円と最も少なく、60歳以上の各年齢階級では2000万円を超える貯蓄現在高となっている。

負債現在高をみると、40歳未満の世帯が1882万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高が少なくなっている。また、負債保有世帯の割合は40～49歳の世帯が67.0%と最も高く、40歳以上の各年齢階級では年齢階級が高くなるに従って低くなっている。

純貯蓄額（貯蓄現在高－負債現在高）をみると、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、貯蓄超過となっている。このうち、60～69歳の世帯の純貯蓄額は2609万円と最も多くなっている。一方、50歳未満の各年齢階級では、負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、負債超過となっている。

(図Ⅲ－1－1、表Ⅲ－1－1)

図Ⅲ－1－1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合
(二人以上の世帯)－2025年－



表Ⅲ－１－１ 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
貯蓄現在高(万円)						
2020年	1791	708	1081	1703	2384	2259
2021年	1880	726	1134	1846	2537	2318
2022年	1901	812	1160	1828	2458	2411
2023年	1904	782	1208	1705	2432	2503
2024年	1984	867	1314	1798	2659	2441
2025年	2059	994	1381	1756	2843	2471
対前年増減率(%)						
2021年	5.0	2.5	4.9	8.4	6.4	2.6
2022年	1.1	11.8	2.3	-1.0	-3.1	4.0
2023年	0.2	-3.7	4.1	-6.7	-1.1	3.8
2024年	4.2	10.9	8.8	5.5	9.3	-2.5
2025年	3.8	14.6	5.1	-2.3	6.9	1.2
年間収入(万円)						
2025年	681	767	871	905	646	442
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)						
2025年	302.3	129.6	158.6	194.0	440.1	559.0
負債現在高(万円)						
2020年	572	1244	1231	699	242	86
2021年	567	1366	1172	692	214	86
2022年	576	1469	1226	620	207	90
2023年	655	1757	1388	715	201	78
2024年	663	1765	1445	729	270	56
2025年	675	1882	1483	743	234	81
対前年増減率(%)						
2021年	-0.9	9.8	-4.8	-1.0	-11.6	0.0
2022年	1.6	7.5	4.6	-10.4	-3.3	4.7
2023年	13.7	19.6	13.2	15.3	-2.9	-13.3
2024年	1.2	0.5	4.1	2.0	34.3	-28.2
2025年	1.8	6.6	2.6	1.9	-13.3	44.6
住宅・土地のための負債(万円)						
2020年	518	1169	1152	620	192	66
2021年	513	1292	1080	618	172	62
2022年	526	1392	1150	549	161	75
2023年	601	1651	1309	643	163	57
2024年	612	1675	1362	657	227	44
2025年	620	1768	1393	669	196	65
負債保有世帯の割合(%)						
2020年	38.5	58.2	66.6	56.5	27.6	12.5
2021年	37.7	59.2	63.7	52.6	28.0	12.5
2022年	37.7	58.2	66.1	51.4	27.2	12.2
2023年	39.3	63.8	67.9	56.3	27.4	11.4
2024年	38.8	64.4	69.0	53.6	29.2	10.6
2025年	37.5	64.3	67.0	53.7	26.5	10.4
純貯蓄額(貯蓄現在高－負債現在高)(万円) ^{※1}						
2020年	1219	-536	-150	1004	2142	2173
2021年	1313	-640	-38	1154	2323	2232
2022年	1325	-657	-66	1208	2251	2321
2023年	1249	-975	-180	990	2231	2425
2024年	1321	-898	-131	1069	2389	2385
2025年	1384	-888	-102	1013	2609	2390
世帯数分布(%) ^{※2}						
2025年	100.0	11.1	16.6	19.8	19.8	32.8

※1 マイナスは、負債超過額を示す。

2 貯蓄・負債編は、貯蓄・負債不詳世帯を除いて集計している。このため、世帯数分布は家計収支編の世帯数分布とは必ずしも一致しない。

(2) 負債保有世帯のうち負債超過額が最も多いのは世帯主が40歳未満の世帯

二人以上の世帯のうち負債保有世帯について世帯主の年齢階級別に貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が1029万円と最も少なくなっているのに対し、60歳以上の世帯は2176万円と最も多くなっており、年齢階級が高くなるに従って貯蓄現在高は多くなっている。

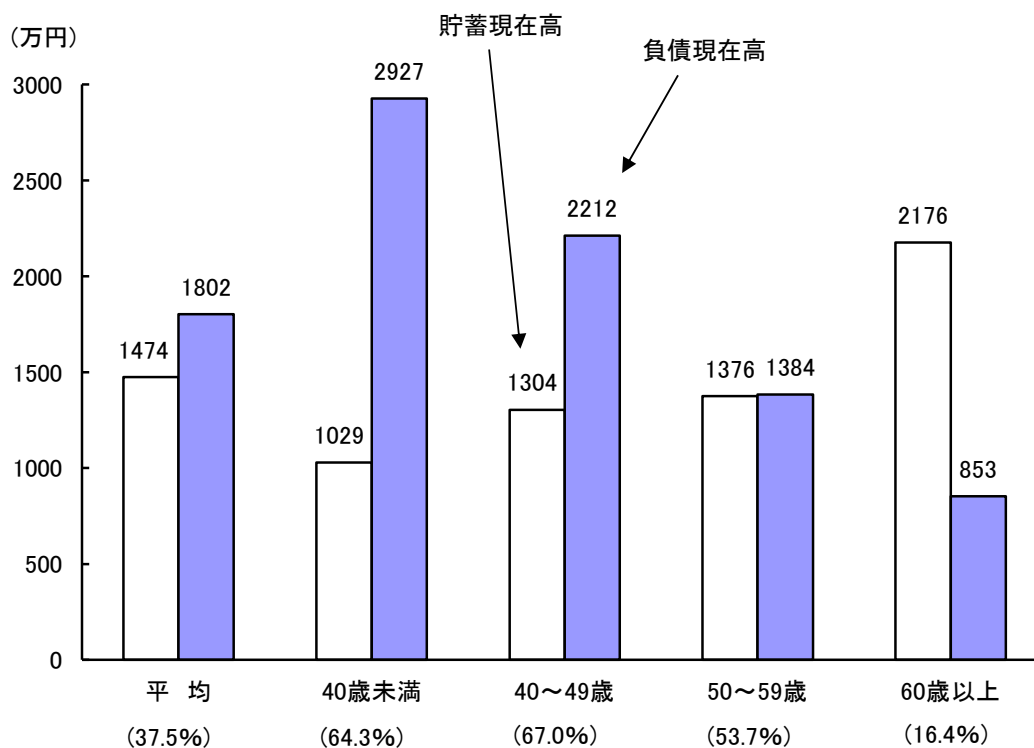
負債現在高をみると、40歳未満の世帯が2927万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高は少なくなっている。

純貯蓄額をみると、60歳未満の各年齢階級で負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、40歳未満の世帯の負債超過額が1898万円と最も多くなっている。一方、60歳以上の世帯では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、純貯蓄額は1323万円となっている。

40歳未満の世帯について貯蓄現在高をみると、前年に比べ124万円、13.7%の増加となっている。また、負債現在高は前年に比べ191万円、7.0%の増加となり、負債現在高の約9割(93.9%)を占める住宅・土地のための負債は2749万円で、前年に比べ153万円、5.9%の増加となっている。

(図Ⅲ-1-2、表Ⅲ-1-2)

図Ⅲ-1-2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高
(二人以上の世帯のうち負債保有世帯) -2025年-



注) ()内は、当該階級ごとの二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合

表Ⅲ－１－２ 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移

(二人以上の世帯のうち負債保有世帯)

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60歳以上
貯蓄現在高(万円)					
2020年	1203	678	952	1380	1725
2021	1250	697	973	1428	1781
2022	1264	812	1075	1399	1689
2023	1269	821	1096	1437	1682
2024	1336	905	1230	1438	1706
2025	1474	1029	1304	1376	2176
対前年増減率(%)					
2021年	3.9	2.8	2.2	3.5	3.2
2022	1.1	16.5	10.5	-2.0	-5.2
2023	0.4	1.1	2.0	2.7	-0.4
2024	5.3	10.2	12.2	0.1	1.4
2025	10.3	13.7	6.0	-4.3	27.5
年間収入(万円)					
2025年	856	804	921	970	673
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)					
2025年	172.2	128.0	141.6	141.9	323.3
負債現在高(万円)					
2020年	1486	2142	1850	1235	802
2021	1505	2308	1840	1314	732
2022	1528	2517	1855	1205	752
2023	1667	2754	2048	1269	710
2024	1709	2736	2095	1360	771
2025	1802	2927	2212	1384	853
対前年増減率(%)					
2021年	1.3	7.7	-0.5	6.4	-8.7
2022	1.5	9.1	0.8	-8.3	2.7
2023	9.1	9.4	10.4	5.3	-5.6
2024	2.5	-0.7	2.3	7.2	8.6
2025	5.4	7.0	5.6	1.8	10.6
住宅・土地のための負債(万円)					
2020年	1346	2012	1731	1097	628
2021	1359	2183	1697	1174	567
2022	1395	2384	1740	1067	600
2023	1529	2589	1930	1141	552
2024	1579	2596	1975	1225	637
2025	1655	2749	2078	1246	705
純貯蓄額(貯蓄現在高-負債現在高)(万円) [※]					
2020年	-283	-1464	-898	145	923
2021	-255	-1611	-867	114	1049
2022	-264	-1705	-780	194	937
2023	-398	-1933	-952	168	972
2024	-373	-1831	-865	78	935
2025	-328	-1898	-908	-8	1323
世帯数分布(%)					
2025年	100.0	19.0	29.7	28.3	23.1

※ マイナスは、負債超過額を示す。

2 年間収入五分位階級別

(1) 負債現在高は年間収入が高くなるに従って多い

二人以上の世帯について年間収入五分位階級別※に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、年間収入が最も低い第Ⅰ階級（世帯主の平均年齢71.8歳）が1552万円、年間収入が最も高い第Ⅴ階級（同52.4歳）が2878万円となっている。

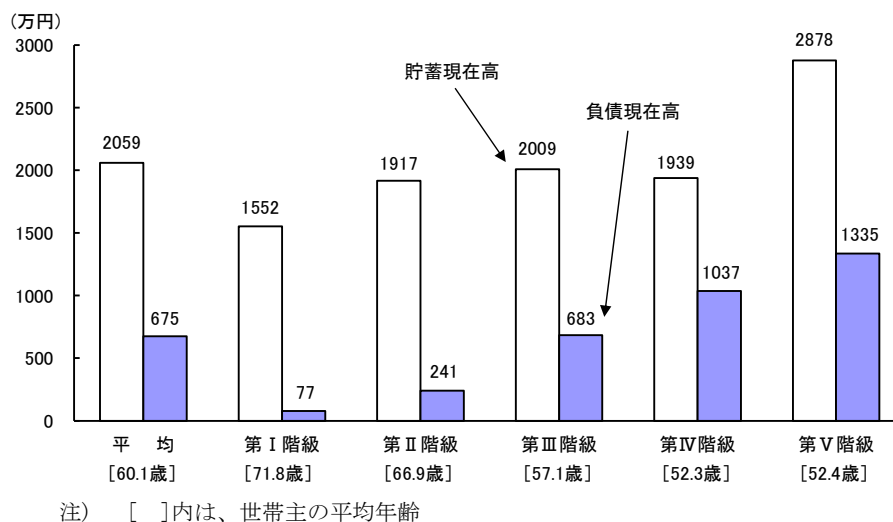
貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると、定期性預貯金は第Ⅰ階級が34.0%と最も高く、第Ⅴ階級が17.3%と最も低くなっている。有価証券は第Ⅴ階級が26.2%と最も高く、第Ⅰ階級が13.2%と最も低くなっている。

負債現在高をみると、第Ⅰ階級が77万円、第Ⅴ階級が1335万円となっており、年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなっている。

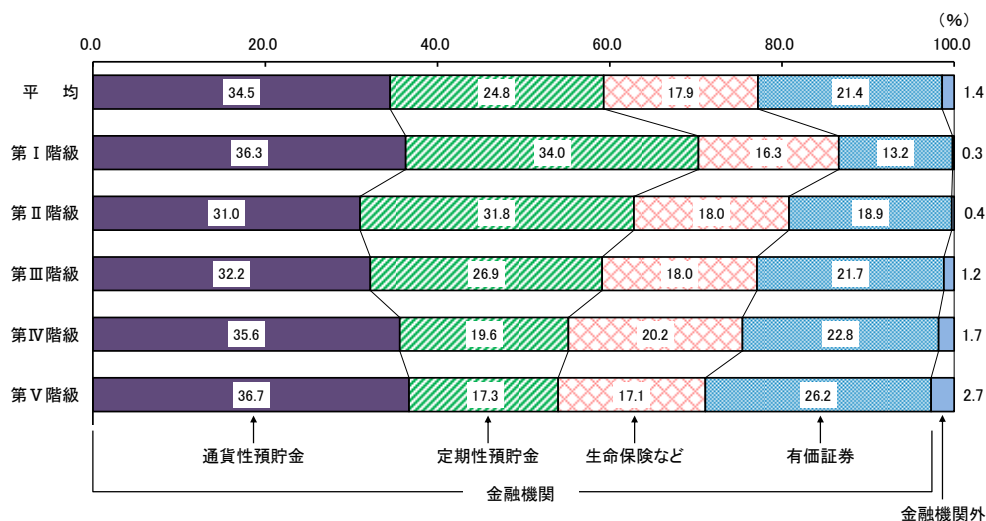
（図Ⅲ－2－1、図Ⅲ－2－2、表Ⅲ－2－1）

※ 年間収入五分位階級とは、年間収入の低い方から高い世帯へと順に並べて5等分したもので、低い方から第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳ、第Ⅴ（五分位）階級という。

図Ⅲ－2－1 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）－2025年－



図Ⅲ－2－2 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）－2025年－



表Ⅲ－２－１ 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯)－2025年－

項 目	平 均	第Ⅰ階級	第Ⅱ階級	第Ⅲ階級	第Ⅳ階級	第Ⅴ階級
		～ 346万円	346～ 498万円	498～ 688万円	688～ 952万円	952万円 ～
世帯人員(人)	2.88	2.32	2.59	2.92	3.23	3.34
世帯主の年齢(歳)	60.1	71.8	66.9	57.1	52.3	52.4
持家率(%)	87.0	88.4	88.8	85.9	84.3	87.8
年間収入		金 額(万円)				
	681	268	416	588	809	1324
貯蓄現在高		金 額(万円)				
金融機関	2059	1552	1917	2009	1939	2878
通貨性預貯金	2029	1547	1910	1984	1905	2800
定期性預貯金	710	563	594	646	690	1057
生命保険など	511	527	609	541	381	498
有価証券	369	253	345	362	392	492
金融機関外	440	205	363	435	442	753
	29	5	7	25	33	78
貯蓄現在高		構 成 比(%)				
金融機関	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
通貨性預貯金	98.5	99.7	99.6	98.8	98.2	97.3
定期性預貯金	34.5	36.3	31.0	32.2	35.6	36.7
生命保険など	24.8	34.0	31.8	26.9	19.6	17.3
有価証券	17.9	16.3	18.0	18.0	20.2	17.1
金融機関外	21.4	13.2	18.9	21.7	22.8	26.2
	1.4	0.3	0.4	1.2	1.7	2.7
負債現在高		金 額(万円)				
住宅・土地のための負債	675	77	241	683	1037	1335
住宅・土地以外の負債	620	62	218	617	961	1241
月賦・年賦	39	10	13	50	56	66
	16	6	11	16	21	27
負債現在高		構 成 比(%)				
住宅・土地のための負債	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅・土地以外の負債	91.9	80.5	90.5	90.3	92.7	93.0
月賦・年賦	5.8	13.0	5.4	7.3	5.4	4.9
	2.4	7.8	4.6	2.3	2.0	2.0

(2) 勤労者世帯の貯蓄現在高は年間収入が高くなるに従って多い

二人以上の世帯のうち勤労者世帯について年間収入五分位階級別※に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、年間収入が最も低い第Ⅰ階級（世帯主の平均年齢54.0歳）が966万円、年間収入が最も高い第Ⅴ階級（同50.5歳）が2847万円となっており、年間収入が高くなるに従って貯蓄現在高が多くなっている。

貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると、定期性預貯金は第Ⅰ階級が26.7%と最も高く、第Ⅴ階級が16.1%と最も低くなっている。有価証券は第Ⅴ階級が27.3%と最も高く、第Ⅰ階級が15.2%と最も低くなっている。

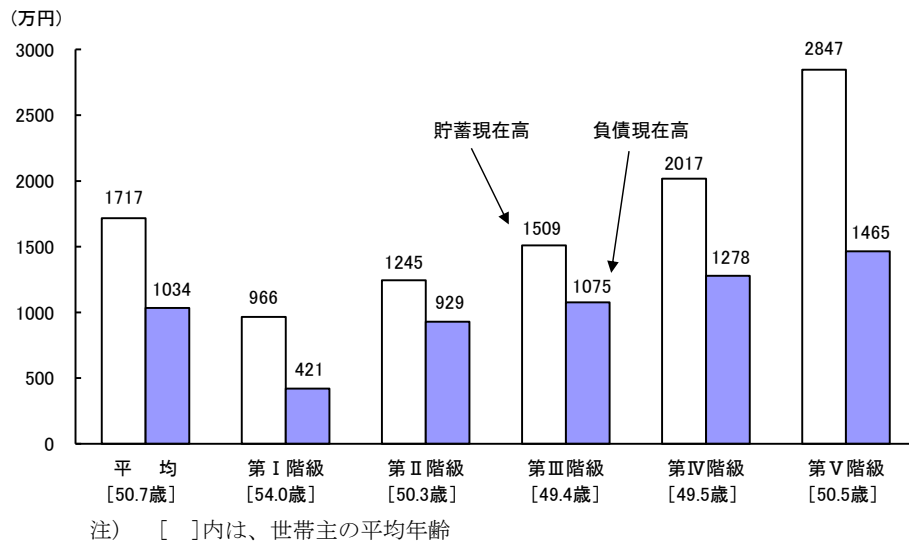
負債現在高をみると、第Ⅰ階級が421万円、第Ⅴ階級が1465万円となっており、年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなっている。

(図Ⅲ-2-3、図Ⅲ-2-4、表Ⅲ-2-2)

※ 年間収入五分位階級とは、年間収入の低い方から高い世帯へと順に並べて5等分したもので、低い方から第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳ、第Ⅴ（五分位）階級という。

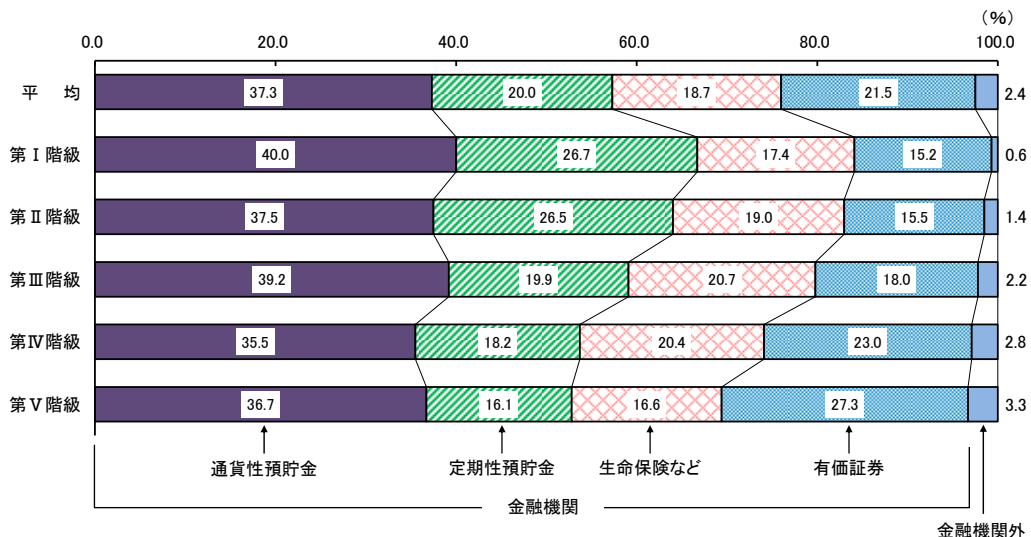
図Ⅲ-2-3 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2025年 -



図Ⅲ-2-4 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2025年 -



表Ⅲ－２－２ 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2025年 -

項 目	平 均	第Ⅰ階級	第Ⅱ階級	第Ⅲ階級	第Ⅳ階級	第Ⅴ階級
		～ 516万円	516～ 678万円	678～ 845万円	845～ 1076万円	1076万円 ～
世帯人員(人)	3.20	2.86	3.12	3.27	3.34	3.41
世帯主の年齢(歳)	50.7	54.0	50.3	49.4	49.5	50.5
持家率(%)	81.9	73.5	82.2	81.2	84.6	88.0
年間収入		金 額(万円)				
	824	394	598	758	949	1420
貯蓄現在高		金 額(万円)				
金融機関	1717	966	1245	1509	2017	2847
通貨性預貯金	1675	960	1227	1476	1960	2753
定期性預貯金	641	386	467	591	717	1044
生命保険など	343	258	330	300	368	459
有価証券	321	168	236	313	412	474
金融機関外	370	147	193	272	463	776
	41	6	18	33	57	94
貯蓄現在高		構 成 比(%)				
金融機関	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
通貨性預貯金	97.6	99.4	98.6	97.8	97.2	96.7
定期性預貯金	37.3	40.0	37.5	39.2	35.5	36.7
生命保険など	20.0	26.7	26.5	19.9	18.2	16.1
有価証券	18.7	17.4	19.0	20.7	20.4	16.6
金融機関外	21.5	15.2	15.5	18.0	23.0	27.3
	2.4	0.6	1.4	2.2	2.8	3.3
負債現在高		金 額(万円)				
住宅・土地のための負債	1034	421	929	1075	1278	1465
住宅・土地以外の負債	961	386	857	985	1206	1371
月賦・年賦	50	17	52	68	52	64
	22	19	20	23	20	30
負債現在高		構 成 比(%)				
住宅・土地のための負債	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅・土地以外の負債	92.9	91.7	92.2	91.6	94.4	93.6
月賦・年賦	4.8	4.0	5.6	6.3	4.1	4.4
	2.1	4.5	2.2	2.1	1.6	2.0

3 貯蓄現在高五分位階級別

貯蓄現在高が最も多い第Ⅴ階級の世帯の有価証券の割合は27.0%

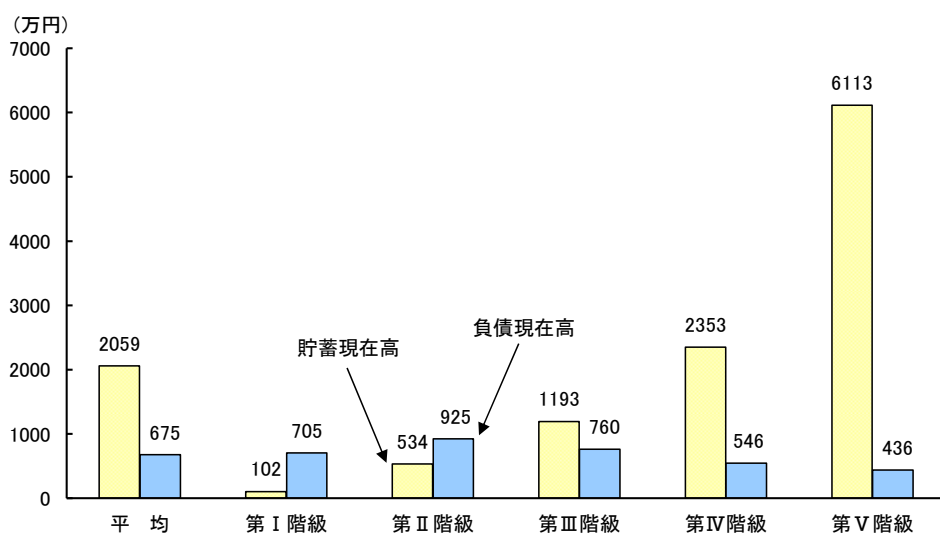
二人以上の世帯について貯蓄現在高五分位階級別*に貯蓄・負債現在高をみると、貯蓄現在高が多くなるに従って、負債現在高は少なくなる傾向にある。

貯蓄の種類別割合をみると、貯蓄現在高が少ない階級ほど、通貨性預貯金の割合が高くなっている。一方、貯蓄現在高が多い階級ほど、有価証券の割合が高くなっている。貯蓄現在高が最も多い第Ⅴ階級についてみると、有価証券の割合は27.0%となっている。

(図Ⅲ-3-1、図Ⅲ-3-2、表Ⅲ-3-1)

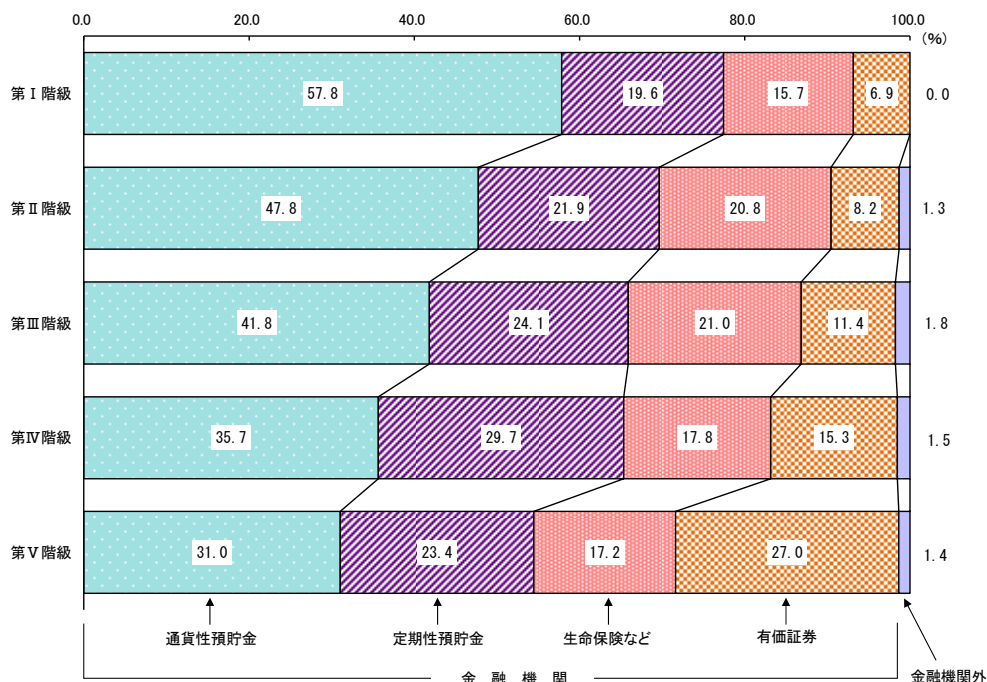
* 貯蓄現在高五分位階級とは、貯蓄現在高の少ない方から多い世帯へと順に並べて5等分したもので、少ない方から第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳ、第Ⅴ(五分位)階級という。

図Ⅲ-3-1 貯蓄現在高五分位階級別貯蓄・負債現在高(二人以上の世帯) -2025年-



図Ⅲ-3-2 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比

(二人以上の世帯) -2025年-



表Ⅲ－３－１ 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）－2025年－

項 目	平 均	第Ⅰ階級	第Ⅱ階級	第Ⅲ階級	第Ⅳ階級	第Ⅴ階級
		～ 285万円	285～ 813万円	813～ 1652万円	1652～ 3259万円	3259万円 ～
金 額（万円）						
貯蓄現在高	2059	102	534	1193	2353	6113
金融機関	2029	101	527	1172	2317	6030
通貨性預貯金	710	59	255	499	839	1897
定期性預貯金	511	20	117	287	699	1433
生命保険など	369	16	111	250	419	1049
有価証券	440	7	44	136	360	1651
金融機関外	29	0	7	21	36	83
（参考）年間収入	681	541	632	689	725	817
構 成 比（％）						
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	98.5	99.0	98.7	98.2	98.5	98.6
通貨性預貯金	34.5	57.8	47.8	41.8	35.7	31.0
定期性預貯金	24.8	19.6	21.9	24.1	29.7	23.4
生命保険など	17.9	15.7	20.8	21.0	17.8	17.2
有価証券	21.4	6.9	8.2	11.4	15.3	27.0
金融機関外	1.4	0.0	1.3	1.8	1.5	1.4
構成比の対前年変化幅（ポイント）						
貯蓄現在高	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.4	-0.1
金融機関	-0.4	-0.9	-0.7	-0.9	-1.6	0.1
通貨性預貯金	-0.4	-0.9	-0.7	-0.9	-1.6	0.1
定期性預貯金	-2.3	2.3	-1.4	-1.9	0.9	-3.8
生命保険など	0.4	-2.6	-0.3	0.3	-1.2	1.2
有価証券	2.4	2.1	2.3	2.5	2.4	2.4
金融機関外	-0.1	-1.0	-0.1	0.0	-0.4	0.1

4 持家世帯（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

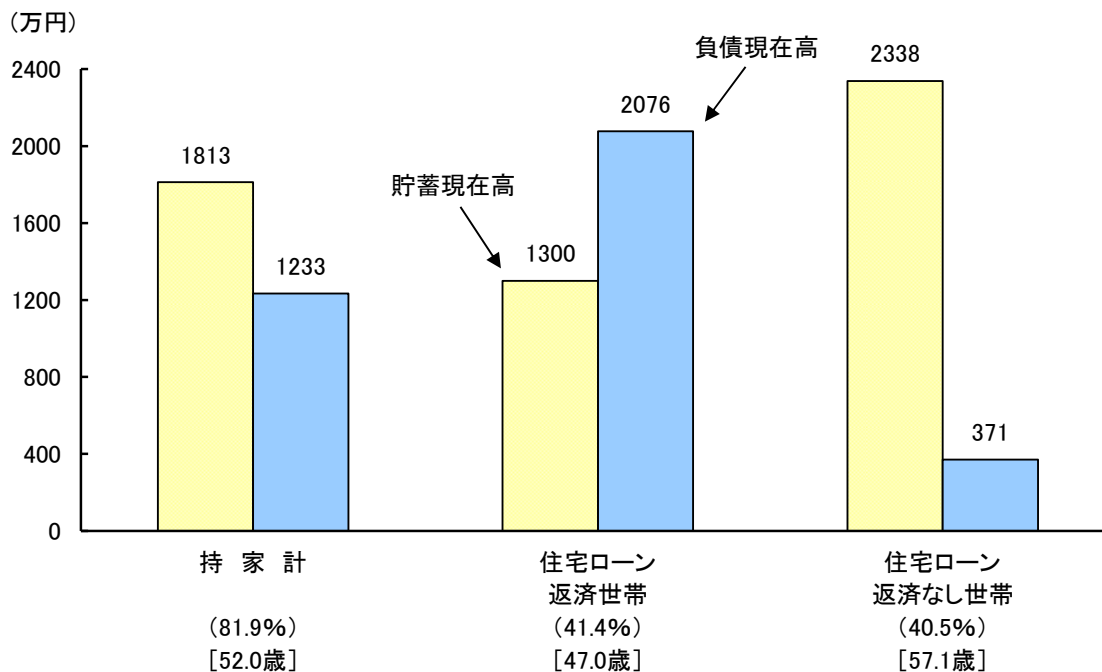
持家世帯のうち住宅ローン返済世帯の負債現在高は2076万円

二人以上の世帯の勤労者世帯のうち持家世帯（勤労者世帯に占める割合81.9%、世帯主の平均年齢52.0歳）について、住宅ローンの有無別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、住宅ローン返済世帯（同41.4%、同47.0歳）は、1300万円となっており、前年に比べ96万円、8.0%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯（同40.5%、同57.1歳）は、2338万円となっており、前年に比べ169万円、7.8%の増加となっている。

同様に、負債現在高をみると、住宅ローン返済世帯は、2076万円となっており、前年に比べ92万円、4.6%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯は、371万円となっており、前年に比べ7万円、1.9%の増加となっている。

（図Ⅲ－４－１、表Ⅲ－４－１）

図Ⅲ－４－１ 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）－2025年－



注) 1 ()内は、勤労者世帯に占める割合
2 []内は、世帯主の平均年齢

表Ⅲ－４－１ 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高の推移
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

年次	金額(万円)			対前年増減率(%)		
	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯
	貯蓄現在高					
2020年	1473	1017	1947	-0.1	5.0	-4.3
2021	1561	1057	2101	6.0	3.9	7.9
2022	1612	1132	2120	3.3	7.1	0.9
2023	1559	1137	2037	-3.3	0.4	-3.9
2024	1662	1204	2169	6.6	5.9	6.5
2025	1813	1300	2338	9.1	8.0	7.8
	負債現在高					
2020年	1036	1763	280	-1.1	2.3	-4.8
2021	1052	1793	259	1.5	1.7	-7.5
2022	1067	1818	272	1.4	1.4	5.0
2023	1199	1967	329	12.4	8.2	21.0
2024	1215	1984	364	1.3	0.9	10.6
2025	1233	2076	371	1.5	4.6	1.9
	住宅・土地のための負債					
2020年	971	1677	237	-1.3	2.1	-6.0
2021	985	1701	218	1.4	1.4	-8.0
2022	996	1718	232	1.1	1.0	6.4
2023	1125	1863	289	13.0	8.4	24.6
2024	1139	1877	322	1.2	0.8	11.4
2025	1154	1958	332	1.3	4.3	3.1
	世帯主の年齢(歳)					
2025年	52.0	47.0	57.1	-	-	-

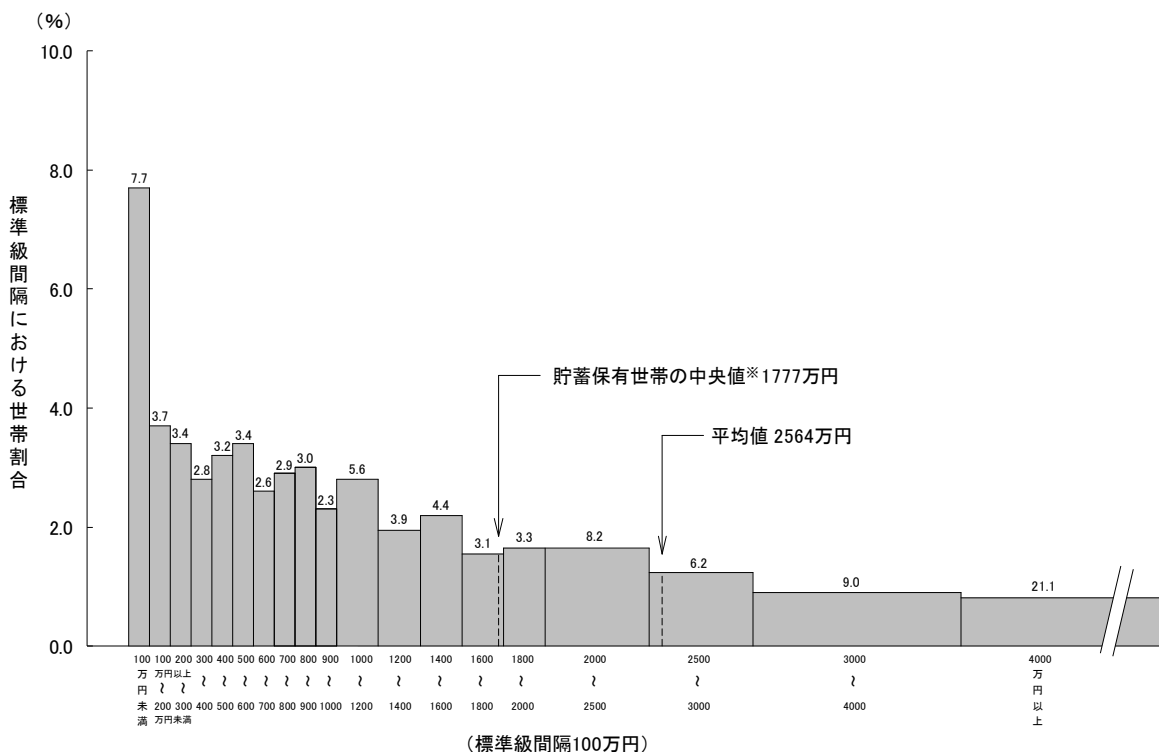
5 世帯主が65歳以上の世帯

(1) 世帯主が65歳以上の世帯では貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が約3分の1を占める

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の世帯（二人以上の世帯に占める割合42.9%）について貯蓄現在高階級の世帯分布をみると、二人以上の世帯全体と比べて、世帯主が65歳以上の世帯では、貯蓄現在高が高い階級にも広がった分布となっている。そのうち2500万円以上の世帯は、全体の36.3%と約3分の1を占めている。一方で、300万円未満の世帯は、全体の14.9%を占めている。

(図Ⅰ-1-3、図Ⅲ-5-1、表Ⅲ-5-1)

図Ⅲ-5-1 世帯主が65歳以上の世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）-2025年-



注) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

※ 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

表Ⅲ-5-1 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） -2025年-

世帯分布	(%)			
	平均	300万円未満	300万円以上～2500万円未満	2500万円以上
二人以上の世帯	100.0	20.4	51.9	27.8
うち世帯主が65歳以上の世帯	100.0	14.9	48.9	36.3
うち世帯主が65歳未満の世帯	100.0	24.5	54.1	21.4

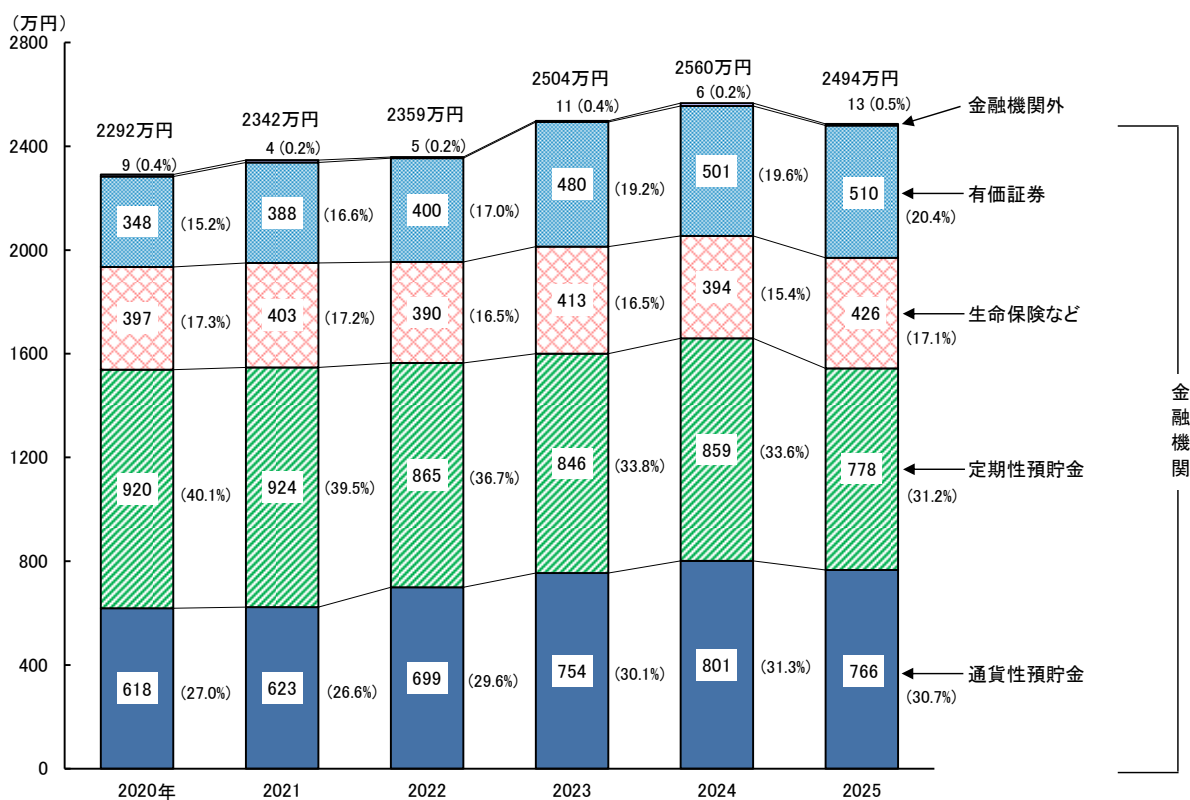
(2) 世帯主が65歳以上の無職世帯の有価証券は510万円で前年に比べ1.8%の増加

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の無職世帯（二人以上の世帯に占める割合32.0%）の1世帯当たり貯蓄現在高は、2494万円で、前年に比べ66万円、2.6%の減少となり、6年ぶりの減少となっている。

貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が778万円と最も多く、次いで通貨性預貯金が766万円、有価証券が510万円、「生命保険など」が426万円、金融機関外が13万円となっている。また、前年と比べると、定期性預貯金が81万円、9.4%の減少、通貨性預貯金が35万円、4.4%の減少などとなっている。

(図Ⅲ-5-2、表Ⅲ-5-2)

図Ⅲ-5-2 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表Ⅲ－５－２ 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関					金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券		
金額(万円)							
2020年	2292	2284	618	920	397	348	9
2021	2342	2338	623	924	403	388	4
2022	2359	2354	699	865	390	400	5
2023	2504	2493	754	846	413	480	11
2024	2560	2554	801	859	394	501	6
2025	2494	2481	766	778	426	510	13
構成比(%)							
2020年	100.0	99.7	27.0	40.1	17.3	15.2	0.4
2021	100.0	99.8	26.6	39.5	17.2	16.6	0.2
2022	100.0	99.8	29.6	36.7	16.5	17.0	0.2
2023	100.0	99.6	30.1	33.8	16.5	19.2	0.4
2024	100.0	99.8	31.3	33.6	15.4	19.6	0.2
2025	100.0	99.5	30.7	31.2	17.1	20.4	0.5
対前年増減率(%)							
2021年	2.2	2.4	0.8	0.4	1.5	11.5	-55.6
2022	0.7	0.7	12.2	-6.4	-3.2	3.1	25.0
2023	6.1	5.9	7.9	-2.2	5.9	20.0	120.0
2024	2.2	2.4	6.2	1.5	-4.6	4.4	-45.5
2025	-2.6	-2.9	-4.4	-9.4	8.1	1.8	116.7

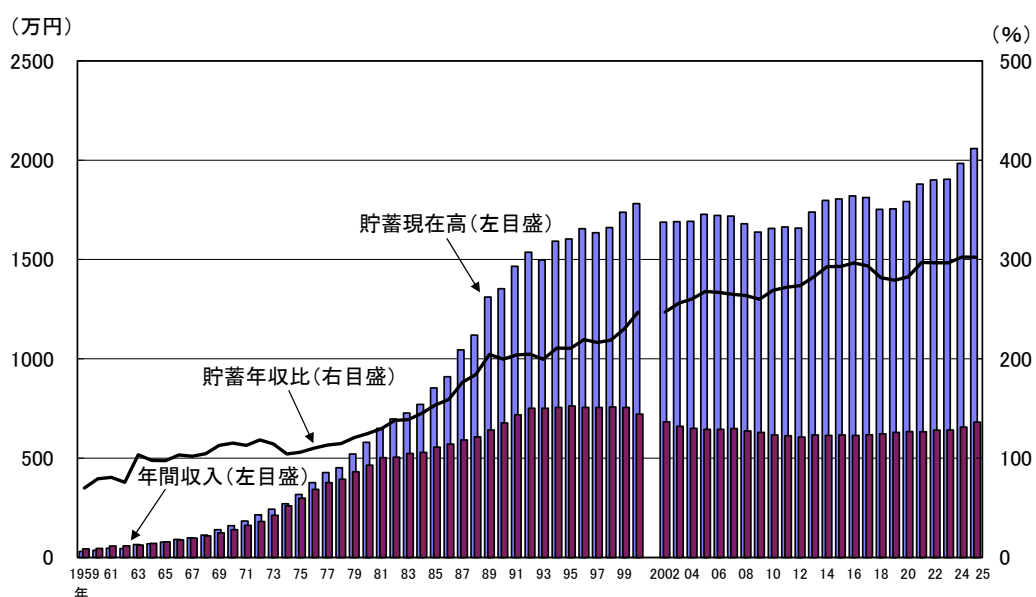
＜参考 1－1＞ 長期時系列（二人以上の世帯の貯蓄の推移）

貯蓄現在高の年間収入に対する比は66年前の4.3倍

二人以上の世帯について1世帯当たり貯蓄現在高の最近の推移をみると、2017年及び2018年は減少となっていたが、2019年以降は7年連続で増加となった。2025年(2059万円)の水準は、66年前の1959年(30万円)の68.6倍となっている。また、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）をみると、2025年は、302.3%と、1959年(70.0%)の4.3倍となっている。

(図、＜参考 1－2＞表)

図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）



注) 2000年以前は、「貯蓄動向調査※」結果による。数値については、次ページ参照 ⇨

※貯蓄動向調査：家計調査の附帯調査として2000年まで毎年12月31日現在で実施。
家計調査とは、調査時期、調査対象世帯数等異なる。
貯蓄・負債編としての調査は、1年の準備期間の後、2002年から実施

<参考1-2> 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄 年収入 比 (1)/(2) (%)
			貯蓄 現在高 (%)	年 収入 (%)	
1959年	30.23	43.18	-	-	70.0
1960	35.90	45.31	18.8	4.9	79.2
1961	46.21	57.28	28.7	26.4	80.7
1962	44.09	58.32	-4.6	1.8	75.6
1963	64.65	62.57	46.6	7.3	103.3
1964	68.90	70.59	6.6	12.8	97.6
1965	76.36	78.39	10.8	11.0	97.4
1966	90.99	88.19	19.2	12.5	103.2
1967	99.47	97.58	9.3	10.6	101.9
1968	112.62	107.79	13.2	10.5	104.5
1969	139.45	123.49	23.8	14.6	112.9
1970	160.27	139.35	14.9	12.8	115.0
1971	182.91	162.12	14.1	16.3	112.8
1972	214.98	181.60	17.5	12.0	118.4
1973	242.60	212.35	12.8	16.9	114.2
1974	270.42	259.78	11.5	22.3	104.1
1975	316.8	299.0	17.2	15.1	106.0
1976	376.8	342.8	18.9	14.6	109.9
1977	427.1	376.9	13.3	9.9	113.3
1978	451.1	393.2	5.6	4.3	114.7
1979	521.2	431.4	15.5	9.7	120.8
1980	579.4	464.3	11.2	7.6	124.8
1981	650.0	501.7	12.2	8.1	129.6
1982	697.2	505.1	7.3	0.7	138.0
1983	726.3	523.5	4.2	3.6	138.7
1984	769.7	529.7	6.0	1.2	145.3
1985	852.8	555.7	10.8	4.9	153.5
1986	909.5	571.0	6.6	2.8	159.3
1987	1045.2	592.3	14.9	3.7	176.5
1988	1119.8	607.5	7.1	2.6	184.3
1989	1311.0	641.3	17.1	5.6	204.4
1990	1353.0	677.3	3.2	5.6	199.8
1991	1465.4	718.9	8.3	6.1	203.8
1992	1536.8	750.5	4.9	4.4	204.8
1993	1498.2	751.0	-2.5	0.1	199.5
1994	1592.1	755.2	6.3	0.6	210.8
1995	1603.5	761.8	0.7	0.9	210.5
1996	1655.3	754.5	3.2	-1.0	219.4
1997	1634.5	754.8	-1.3	0.0	216.5
1998	1660.7	758.4	1.6	0.5	219.0
1999	1737.7	755.0	4.6	-0.4	230.2
2000	1781.2	721.3	2.5	-4.5	246.9
2001	-	-	-	-	-
2002	1688	683	-	-	247.1
2003	1690	660	0.1	-3.4	256.1
2004	1692	650	0.1	-1.5	260.3
2005	1728	645	2.1	-0.8	267.9
2006	1722	645	-0.3	0.0	267.0
2007	1719	649	-0.2	0.6	264.9
2008	1680	637	-2.3	-1.8	263.7
2009	1638	630	-2.5	-1.1	260.0
2010	1657	616	1.2	-2.2	269.0
2011	1664	612	0.4	-0.6	271.9
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7
2018	1752	622	-3.3	0.8	281.7
2019	1755	629	0.2	1.1	279.0
2020	1791	634	2.1	0.8	282.5
2021	1880	633	5.0	-0.2	297.0
2022	1901	641	1.1	1.3	296.6
2023	1904	642	0.2	0.2	296.6
2024	1984	656	4.2	2.2	302.4
2025	2059	681	3.8	3.8	302.3

貯蓄動向調査の結果

家計調査（貯蓄・負債編）の結果

注）1959年から2000年までは貯蓄動向調査の結果であり、2002年以降は家計調査（貯蓄・負債編）の結果である。

<参考2> 2025年の貯蓄・負債をめぐる主な動き

貯蓄・負債関係

- ・ 主要銀行が住宅ローンの変動金利を引き上げ、16年ぶりの水準に（4月）
- ・ 経団連がまとめた、2025年春季労使交渉の大企業の賃上げ幅は1万9195円、賃上げ率5.39%となり、現行の集計方法となった1976年以降、前年に次ぐ過去2番目の上げ幅（8月）
- ・ 経団連がまとめた、大手企業が支給するボーナスの平均妥結額は、97万4000円（夏）、100万4841円（冬）で、共に、現行の集計方法となった1981年以降最高（8月及び12月）
- ・ 最低賃金が全国平均で66円引き上げられ1121円に。比較可能な2002年以降最大の上げ幅（10月）
- ・ 日経平均株価は、10月27日に終値が初めて5万円を突破する5万512円を記録。10月31日には5万2411円となり史上最高値を更新（10月）
- ・ 個人型確定拠出年金「iDeCo」の2025年12月末時点の加入者総数は、前年同月比8.1%の増加（12月）
- ・ 少額投資非課税制度（NISA）の2025年12月末時点（速報値）の口座数は、約2830万と、前年同月比10.4%の増加、年間買付額は、約18兆7935億円と7.7%の増加（12月）
- ・ 資金循環統計によると、2025年12月末時点の個人（家計部門）の金融資産残高は、2351兆円と、前年同期比5.3%の増加となり、過去最高を更新（12月）
- ・ 投資信託協会がまとめた、2025年12月末の公募投信残高は、前年比23%増の301兆5851億円となり、過去最高を更新。また、上場投信（ETF）を除いた残高は前年比24%増の174兆7879億円となり、過去最高を更新（12月）
- ・ 不動産経済研究所がまとめた、2025年の全国の新築マンションの平均価格は、6556万円と、前年比7.8%増加し、9年連続で過去最高を更新
- ・ 2026年1月時点の住宅地の公示地価は、5年連続の上昇
- ・ 2025年の新設住宅着工戸数は、74万667戸と、前年比6.5%の減少となり、3年連続の減少
- ・ 所得税の年収の壁の見直しにより、課税最低限を103万円から引上げ

その他

- ・ アメリカ合衆国第47代大統領にドナルド・トランプ氏が就任（1月）
- ・ 1955年に開始された、NTT東日本・西日本が提供する天気予報サービス「177」が終了（3月）
- ・ 世界卓球選手権ドーハ大会の男子ダブルスで日本勢が64年ぶりに金メダルを獲得（5月）
- ・ Nintendo Switch 2が発売（6月）
- ・ 参議院議員選挙。投票率が58.51%となり前回参議院議員選挙の投票率を6.46ポイント上回る（7月）
- ・ 群馬県伊勢崎市で41.8度を観測。国内観測史上最高を更新（8月）
- ・ 車いすテニスの小田凱人選手が史上最年少で四大大会、パラリンピックを全制覇（9月）
- ・ 世界陸上が東京で開幕。東京での開催は1991年以来34年ぶり（9月）
- ・ 制御性T細胞の発見で、坂口志文教授がノーベル生理学・医学賞を、金属有機構造体の開発で、北川進教授がノーベル化学賞をそれぞれ受賞（10月）
- ・ 第104代内閣総理大臣として自民党高市早苗総裁が選出され、高市内閣が発足。史上初の女性総理大臣（10月）
- ・ 青森県東方沖を震源とする地震が発生。青森県で震度6強の揺れを観測。この地震を受け、気象庁は「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を初めて発表（12月）
- ・ 2025年の訪日外国人数が4268万3600人（推計値）となり、過去最多を記録
- ・ 映画「鬼滅の刃」や「国宝」などヒット作が相次ぎ、興行収入が過去最高を記録

図 表 目 次

([] 内はe-Statに掲載している詳細結果表の番号)

- 図 I - 1 - 1 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1 表]
- 表 I - 1 - 1 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1 表、8 - 30 表]
- 図 I - 1 - 2 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1 表]
- 表 I - 1 - 2 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1 表、8 - 30 表]
- 図 I - 1 - 3 貯蓄現在高階級別世帯分布
[8 - 1 表、8 - 30 表]
- 図 I - 2 - 1 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1 表]
- 表 I - 2 - 1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1 表]
- 図 I - 2 - 2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1 表]
- 表 I - 2 - 2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1 表]
- 図 II - 1 - 1 負債現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1 表]
- 表 II - 1 - 1 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1 表、8 - 22 表、8 - 31 表]
- 図 II - 1 - 2 負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1 表]
- 表 II - 1 - 2 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1 表、8 - 22 表、8 - 31 表]
- 図 II - 1 - 3 負債現在高階級別世帯分布
[8 - 1 表、8 - 31 表]
- 表 II - 2 - 1 負債の種類別負債現在高
[8 - 1 表、8 - 31 表]
- 図 III - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合 (二人以上の世帯)
[8 - 5 表、8 - 24 表]
- 表 III - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 5 表、8 - 24 表]
- 図 III - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯のうち負債保有世帯)
[8 - 24 表]
- 表 III - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち負債保有世帯)
[8 - 24 表]
- 図 III - 2 - 1 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯)
[8 - 3 表]

- 図Ⅲ－２－２ 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）
[8－3表]
- 表Ⅲ－２－１ 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）
[8－3表]
- 図Ⅲ－２－３ 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8－3表]
- 図Ⅲ－２－４ 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8－3表]
- 表Ⅲ－２－２ 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8－3表]
- 図Ⅲ－３－１ 貯蓄現在高五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）
[8－13表]
- 図Ⅲ－３－２ 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）
[8－13表]
- 表Ⅲ－３－１ 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）
[8－13表]
- 図Ⅲ－４－１ 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8－6表]
- 表Ⅲ－４－１ 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高の推移
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8－6表]
- 図Ⅲ－５－１ 世帯主が65歳以上の世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）
[8－10表、8－30表]
- 表Ⅲ－５－１ 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）
[8－30表]
- 図Ⅲ－５－２ 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）
[8－10表]
- 表Ⅲ－５－２ 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）
[8－10表]
- 参考 1－1 図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）
[8－1表]
- 参考 1－2 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）
[8－1表]

問合せ先



総務省統計局統計調査部
消費統計課審査発表係

電 話 03 (5273) 1174

家計調査の
最新情報はこちら！

家計調査

検索

- ・家計調査（貯蓄・負債編）ホームページ
<https://www.stat.go.jp/data/sav/1.html>

Family Income and Expenditure Survey (Savings and Liabilities) (in English)
<https://www.stat.go.jp/english/data/sav/index.html>

※この冊子のPDFファイルは、次のURLからダウンロードできます。
<https://www.stat.go.jp/data/sav/sokuhou/nen/index.html>

- ・結果の概要は、統計メールニュースでも配信しています。
メールニュースのお申込みは、統計局ホームページから。
<https://www.stat.go.jp/>
- ・政府統計の総合窓口 (e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>

Portal Site of Official Statistics of Japan (in English)
<https://www.e-stat.go.jp/en/>

統計データを引用・転載する場合には、出典(例:総務省「家計調査」から引用)の表記をお願いします。